

今年度より新しくつくばね会に通所されている方々のご紹介を致します！

（所属／①名前／②好きな食べ物／③頑張りたいこと・頑張っていること）



☆けやき社会センター☆
①小暮 陽向さん
②ハンバーグ
③けやきのお仕事



☆けやき社会センター☆
①鈴木 丈也さん
②お肉
③けやきでお仕事を頑張ってお給料を貰うこと



☆はるか☆
①モハメッドさん
②ラーメン
③ピン作業で体力をつけたい



☆はるか☆
①Tさん
②エビフライ
③通勤訓練を頑張りたい



☆はるか☆
①Sさん
②ラーメン
③コミュニケーション能力をUPしたい



☆おおぼん☆
①八谷 涼太さん
②カレーライス
③畑作業を頑張りたい



☆ふれんず☆
①山本 耀平さん
②トマト・餃子
③国・教・理・社の勉強



☆ふれんず☆
①高井良 昊さん
②餃子
③分数を頑張りたい



☆ふれんず☆
①割田 新士さん
②アイス・いちご
③着替えを一人で出来るように頑張っている



☆ふれんず☆
①松井 颯太さん
②ぶどう
③学校での活動



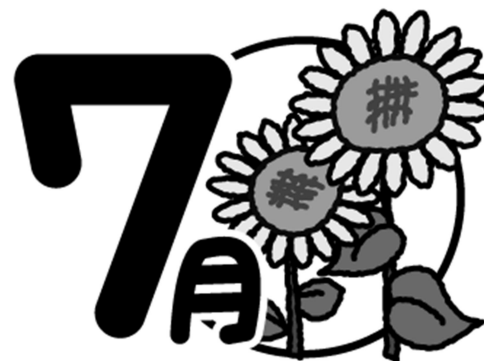
☆ふれんず☆
①庄司 海斗さん
②サンドウィッチ
③漢字を書くこと

2024年6月16日発行（毎月12回2・4・6・8の日）通巻第5498号
1994年8月24日第三種郵便物承認
川口市芝新町15の9 頒価 50円
郵便振替 001000-81411223
発行人 埼玉県障害者団体定期刊行物協会

～ そ よ 風 の よ う に 街 に 出 よ う ～

S S T L

つ く ば ね 通 信



社会福祉法人つくばね会
代表 千葉県我孫子市都部新田37-2

TEL 04-7187-1944

FAX 04-7187-1947

HP <http://tukubanekai.sakura.ne.jp/>

編集・発行：けやき社会センター・はるか

おおぼん・ふれんず・楓・サポートセンターけやき

今年度4月で、福祉職員歴24年目に突入しました。（経歴順→小規模作業所3年・けやき社会センター4年・はるか12年・けやき社会センター2年・ふれんず2年）そして、自身2回目の管理者（前回 はるか）になりました。ふれんずは、長年利用されていた高校3年生が卒業し、新たな子どもたちを迎え、利用する割合も小中学生が9割程となり、高校生は1割程で前年度とは異なる雰囲気になりました。放課後等デイサービス（以下、放デイ）においては、2024年に大きな法律の改正が行われました。細かな改正点は多々ありますが、主な3つのポイントを取り上げます。①利用時間の算定方法が変更になり、利用時間によって報酬が変化します。②個別支援計画作成にあたり、「5領域」の視点で作成をする事になります。（5領域：健康・生活 運動・感覚 人間性・社会性 言語・コミュニケーション 認知・行動）＊支援内容は、お互いに関連して成り立っており、重なる部分もあります。この「本人支援」の目的は、障がいのある子どもが、将来、日常生活や社会生活を円滑に営めるようにするもの。③令和7年4月まで猶予がありますが、新たなプログラム（5領域とのつながりを明確化した事業所全体の支援内容を示すプログラムの作成・公表の義務化）の構築になります。

長年の課題でもあった移転についても進行する事となり、これにより利用できるスペースの確保とバリアフリーの問題が解決され、現在よりも安心・安全に利用できるようになると思います。まだまだ、取り組む事が多くありますが、様々な方々のお力をお借りし、丁寧に取り組んでいきます。

我が家の事になりますが、この春から長男が社会人になり（経済を学んでいたはずが、何故か同業者になりました。）幼い頃より、他人の悪口を言っている場面を聞いた事がなく、人付き合いも得意なため向いているのかもしれませんが。一方、長男とは全く正反対の性格の次男は高校に進学し、日々学業と部活（部員数が100名近い事に驚き）に励んでいます。コツコツ努力する事を厭わないため、様々な事を学んで、たくさんの友人を作りたいと（末っ子のため、いろいろと面倒を見られるタイプ）願っております。私は、これと言った趣味もなく、次男が世話をしないメダカの世話が日課になっています。一昨年の冬に大寒波が数日続き水槽には分厚い氷が張り、10年近く世代を繋いできたメダカたちが、全滅してしまいました。今年は、越冬にも成功し、日々、黒・銀・黄色のメダカが元気に泳いでいます。昨年たくさんの卵が孵化し、子メダカが誕生しました。移転が完了したら、メダカの池をふれんずに作り、皆で鑑賞したいと思います。（ふれんず管理者 栗原 大介）

「福祉職員キャリアパス対応生涯研修に参加して思う事」

少し前の話ですが、2 日間にわたり千葉市社会福祉協議会主催の「福祉職員キャリアパス対応生涯研修過程テキスト管理職員編」に参加させていただきました。総勢 30 名ほどだったでしょうか、講師による章ごとの科目の説明の他、各テーブルのグループに分かれてのワークやセッションなどをしました。この研修の面白さは多々学びや気づきがあったのですが、「キャリアパス対応生涯研修」とあることです。生涯発達論のエリクソンの「人の生涯は一生発達が続く」に似ていると感じたことでした。研修を通じて生涯勉強し成長・発達を続けていく。そのような意味合いにも通じた印象を持ったからです。福祉職員向けではありましたが、福祉職以外の他業種であっても通じるテキストの内容でした。

講師からは管理＝マネジメント＝PDCA をすべての業務に回していくこと、管理職員のリソースは「時間」であること、一つの学びを実践し習慣化させることが大人の学びであることの重要性を聞き、私の中で当てはめた時に PDCA の A の部分が弱いことを実感しました。

その他グループワークで行なったブレインストーミングは思いもよらぬ意外なアイデアが出て有効であること、とても有意義であったという間の時間でした。

千葉市で行なった研修でしたが、つくばね会のことをよく知っている事業所も参加されていて、情報交換したり、中には残業時間軽減のシステムを導入した管理者の方のお話を聞くなど、出会いの交流を深め人脈を作るのも研修の醍醐味でもあります。過去たくさんの研修を受けてきた私ですが、研修を受けただけで満足するのではなく、インプットしたものをアウトプットすることこそが研修の成果だと思っています。今後様々な研修を受けるであろう職員へエールを送ると共に。（ちなみに私は管理者ではありません・・・）

（はるか 堀辺 欽也）

福祉のきっかけ

私は成人するまで福祉に関わる機会もなく、学生時代福祉に興味を持ったことは正直ありませんでした。しかし同級生に障害を持った方がいたこともあり、昔から障害を持った方が周りにいる環境には抵抗はなかったです。たまたま 10 年くらい前に東京の福祉施設で非常勤職員として勤務をしたことがありましたが、その際は正職員に誘われるも「こんな責任の重い仕事、とても自分では出来ない」と一度離れました。仕事が嫌になったわけではなく、人ひとりの人生に部分的にでも直接関わるということが、その時の自分にとってはとても重く感じてしまったのです。その後、しばらく別の仕事をしていたのですが、母親が事故に遭い、施設に通うこととなり、母親が今後関わっていく世界のことをもっとしっかりと知りたい、そして今度こそ自分の仕事として携わって行きたいと思い、つくばね会に入職致しました。

つくばね会で働いてみて感じることとしては、想像していたよりもはるかに大変な仕事 であるということ。しかしそれ以上に喜びや楽しさを感じる仕事でもあるということです。これからも利用者さんと一緒に仕事を通しての達成感を共有し合いながら、それぞれの豊かな人生と一緒に歩んでいけたらと思います。

（はるか 植原 大輔）

けやき社会センター管理者挨拶

令和 6 年度よりけやき社会センターに管理者として戻って参りました長瀬です。4 年ほど放課後等デイサービスふれんず管理者として経験を積ませていただき、またけやき社会センターで働ける事を嬉しく思っています。

ふれんずでは子供達の笑顔にいつも癒される毎日で、自分の子供のように向き合ってきました。小学 1 年生の頃から知っている児童利用者が高校卒業し立派に成長した姿を見ると多くの感情が湧き出てきます。児童の成長が職員のやりがいに繋がっているように思えます。保護者の皆様にも助けて頂く事も多く、成長をさせていただけた事感謝しています。放課後等デイサービスの制度の目的や保護者の想いなど考えながらいかに成長できる環境を整えていけるかなど職員と考え、企画や支援方法などに力を入れていきました。今後もふれんずを選んでいただいた方が日々成長していけるよう、つくばね会職員としてお手伝いできればと思います。

私がいた時のけやきは就労継続支援 B 型でしたので、生活介護のけやきに未だ戸惑っているところもありますが、職員と一緒に考え、生活介護という枠にとらわれずに、けやきらしさを提供していければと思っています。

けやき社会センターは一人ひとりと真摯に向き合うことできる職員の揃った素晴らしい事業所です。優秀な職員に支えられながら、今後もより質の高いサービスを目指すとともに、皆様に楽しく利用していただける、「楽しく心温まるけやき」にしていきたいと思っていますので今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

（けやき社会センター管理者 長瀬 俊広）

はるか就労移行での出来事

今年 4 月、新たに 3 名の方が加わり利用者さんは 11 名になりました！人数が増え、訓練も昼休みもとでも賑やかで、休み時間は笑い声が響きます。ご存知の方も多いと思いますが、はるか就労移行の訓練プログラムは、農作業、公園清掃、洗車など外での訓練が盛り沢山です。

私は、はるかに来て 1 年足らず。これまで外で作業をすることはほとんどありませんでした。夏の暑さにも冬の寒さにも負けず、休むことなく通所して訓練に取り組む利用者さんの姿は本当に尊敬します。訓練中の「お願いします！」「ありがとうございます！」「手伝う所ありますか？」「〇〇やります！」などの声のかけ合い、チームワークも抜群です。

先日、企業の面接に行く利用者さんに、「行ってらっしゃい！」「頑張ってください！」とみんなが拍手で送り出す場面がありました。自然とこういう声かけが出来るのは素敵だなあ…。応援する、相手を思う心に触れて、何だかジーンとしてしまいました。

就労移行は、就職を目指すために訓練をする場です。しかし、仕事だけ出来るようになるのではなくて、みんなのように訓練を通してチームワークを養ったり、相手を思いやる心を育てることも仕事をする上で大事な事だと改めて考えた日でもありました。

2 年間という決まった期間で、一人ひとりがやりたい仕事に就けるように、思いやりの心も伝えていけるように、これからも支援に望みたいと思います。

（はるか 大野 有珠）

グループホーム管理者挨拶

つくばね会には「空」「太陽」「地球」と 3 つのグループホームがあり、昨年度はグループホーム「地球」の管理者をしておりましたが、今年度より「空」「太陽」を含めた 3 ホーム全ての管理を行うこととなりました。

現在は「空」一軒家タイプ 4 名・「太陽」アパートタイプ 6 名・「地球」一軒家タイプ 10 名の計 20 名の利用者の方々が入居されており、3 ホームがそれぞれの特色を持っています。

全国的に見るとグループホームの数は増加傾向にあります。しかし国の専門家会議の報告書によると「福祉経験の少ない事業者の参入が多く、支援の質の低下が懸念される」とありました。実際にニュースになった事案もあるなか、今年度の報酬改定の中に「共同生活援助における支援の質の確保(地域との連携)」というものが盛り込まれています。生活の場であるグループホームは従業員以外の第三者が訪れることが少なく、運営が閉鎖的になりやすい為に利用者や家族、地域住民、有識者などからなる「地域連携推進会議」の設置が求められる事となります。

今後、つくばね会のグループホームがより過ごしやすく楽しい、そして携わる支援員、世話人も利用者の方々のサポートを楽しく行っていけるよう頑張っていきたいと思いますので宜しくお願い致します。

（グループホーム管理者 廣瀬 晋）

～直接的な支援ではないけれど～

移動支援/居宅介護事業の「楓」と、つくばね会本部を兼務する事になりました。楓での主な業務は有償運送(運転手)と事務です。

運転手ですが、利用者との関わりがあると言う事で、初めてお会いする方は、全く知らない私をどう思うだろうか、普段関わりがなかった人からいきなり「今日から運転手です」は、利用者に不快感・緊張感を与えないだろうか…等など、私の性格上、初対面の方へ深く接するのはあまり得意ではなく、慎重に様子をうかがってしまうが故に、実際に勤めるまではとても不安でした。しかし「楓」として初めて業務に入った際、利用者は私に対して緊張もあると思いますが、支援員と私からの他愛もない冗談交じりの会話で「笑ってくれた」のがとても嬉しく、そして安心しました。

利用者を少しでも知るために、ご本人承諾の上で通院(リハビリ)の見学をさせていただきました。一生懸命にリハビリに取り組む姿に、とても心が動かされました。我々は普段何も意識することなく手足を自由自在に動かしていますが、そう「出来ない」人のフラストレーションは計り知れません。目標は「自由に動くこと」と聞き、なお考えさせられました。

些細なことでもなんでも、私と接することで、「楽しい」と思っていたきたい。そう思い、帰りの車内で少し積極的に話しかけたところ、笑顔で「返事」をしていただきました。後日、同利用者を迎えるに伺った際には、むしろ利用者から笑顔で手を振っていただき、今では私は彼と会うことがとても楽しみです。

こういった小さな事かもしれませんが、積み重ねていき、「楓」を利用する事に対し「楽しい」「好き」といったポジティブな要素が沢山つまった事業所の継続が出来るよう、日々考えていきます。

（楓 鈴木 健之）

利用者自治会開催（おおばん）

5 月 17 日（金）におおばんで利用者主体の自治会をグループディスカッション形式で行いました。

利用者同士で仕事場の約束事について 5 グループに分かれ、話し合った後はグループから発表者を決め、全体に発表しました。職員がグループに入り利用者が思っていること・考えていることを引き出せるようにサポートに入りました。司会進行を希望利用者から 2 名選出し、サポートで全体への声かけや意見のとりまとめを職員が行いました。

おおばんの自治会は自分で考え発表する利用者が多いので、色々な意見が聞ける場だと思います。例えば携帯の使用方法について話し合った際、「皆さんは携帯を使って何をしているのか？」と質問がありました。音楽を聴いている人・グーグルマップを見ている人・撮った写真で日頃の出来事を友達に報告している人・ポイント還元が時間指定なのでお昼に使う人など、使い方は様々でした。また呼び名については「自分はさん付けで呼んでください」と全体にお願いしている方や「相手と呼ぶ際は名前でしっかり呼びましょう」と何度も発表している方もいました。異性との距離感の議題についても様々な意見がありました。「ボディタッチ」は良くないと多くの方は言っていましたが「ハイタッチ」はどうなのか、と意見がありました。普段から「お疲れさま」とコミュニケーションとして使っている人・皆で一つの事を成し遂げた時の喜びのハイタッチをしたいなど熱のこもった意見がたくさんありました。話し合いの結果、ハイタッチはしても良い事になりました。おおばんの皆さんからは職員も予想できない発想がたくさんありいつも感心させられます。

グループディスカッション後の掃除当番決めでも、皆さんやりたい場所をしっかりと決めていました。人数の関係で希望していた場所でなくなった際も「いいよ」と、ゆずり合いの心が見られました。

全体で話し合いを行う機会があまりないので年に 2 回の自治会はとても貴重な時間だと思います。利用者が自分の意見を話せる機会を有意義なものになるようにサポートできたらと思いました。

（おおばん 植木 しほ 平間 聖佳）

「ふれんず」～子どもたちの様子～

今年度は新しく 6 名の利用者の方を迎えてから 3 ヶ月が経ちました。5 月には GW があり思い思いの休日を過ごすことが出来たことや「学校でこんなことをしたよ!」、「体育祭があって優勝しました!」など学校での楽しい出来事も話してくれました。その分、学校での行事が多く疲れているのかなという姿も見られましたが…💧

公園活動では遊具や玩具を使って体を動かしたり、電車がすぐ横を通る公園では電車に手を振る子など一人ひとりが楽しんで遊んでいました。水遊びが好きな子が多いため、暑い日には少し早かったですが水鉄砲で水遊びをすると嬉しそうな子どもたち。水鉄砲を渡すと目の色を変えて職員をロックオンして楽しそうに追いかけて水をかけ、早くも今年の夏休みもびしょ濡れになる予感がしました。公園では普段は見る事が多い電車ですが、ミニ鉄道の乗車体験をする機会があり電車が好きな子はカメラに向かってピースをしながら満面の笑みで列車に乗る姿が印象的でした。

おやつ作りではお店屋さんをイメージして用意すると「なにこれ～、パンケーキ屋さん?」といつもと違う雰囲気にも子どもたちもテンションが上がり、食べる準備がいつもより早かった子どもたち。トッピングも好きなものを選んで食べました。今後は買い物学習を意識して玩具のお金や引換券などを使い、遊びを通じて実際の場面を想定しながら学べる機会も用意していけたらと思います。

これから夏本番を迎えますが、熱中症に気をつけ、水分補給・休憩を意識し、今年の夏も沢山の楽しい思い出を皆さんと作っていききたいと思います。



津久井やまゆり園事件：7 年の歳月を経て何をすべきか

2016 年 7 月 26 日、神奈川県相模原市の知的障害者施設「津久井やまゆり園」で、元職員の男が刃物で入所者 45 人を殺傷し、19 人が死亡する事件が発生しました。戦後最悪の単独犯による殺人事件となったこの事件は、日本社会に大きな衝撃を与え、障害者に対する差別や偏見の問題が改めて浮き彫りになりました。

あれから 7 年が経ちました。事件の悲しみは癒えることなく、遺族の苦しみは今も続いています。また、障害者に対する偏見や差別は依然として根強く残っており、事件のような悲劇が再び起こらないように、社会全体で取り組むことが求められています。

事件を風化させない

津久井やまゆり園事件は、決して忘れてはならない事件です。事件の犠牲者を追悼し、二度とこのような悲劇を起こさないために、事件の教訓を共有することが重要です。

近年は、事件を風化させないための取り組みが行われています。例えば、2023 年には、事件の犠牲者を追悼する「19 のいのち」プロジェクトが立ち上げられました。このプロジェクトでは、犠牲者 19 人の名前や人柄を伝えるウェブサイトや書籍が制作されています。

また、各地で追悼集会やシンポジウムが開催されています。これらの集会やシンポジウムでは、事件の経過や原因について議論するとともに、障害者に対する理解を深め、共生社会の実現に向けて考える場となっています。

障害者に対する差別と偏見をなくす

津久井やまゆり園事件は、障害者に対する差別と偏見が根強く残っていることを示しました。障害者は社会の一員であり、すべての人が尊重され、インクルージョンされる社会を実現するために、差別と偏見をなくすことが重要です。

障害者に対する差別と偏見をなくすためには、教育や啓発活動が重要です。学校教育の中で、障害者に対する理解を深める授業を取り入れるべきです。また、メディアや地域社会においても、障害者に関する正しい情報を発信し、障害者に対する理解を深める取り組みが必要です。

共生社会の実現に向けて

津久井やまゆり園事件は、私たちに共生社会の実現に向けて取り組むことの大切さを教えてくれました。共生社会とは、障害者もそうでない人も、互いに尊重し合い、共に支え合いながら生きていく社会です。

共生社会を実現するためには、障害者に対する理解と協力を深めることが重要です。障害者と健常者が交流できる場を設けたり、障害者が社会参加しやすい環境づくりを進めたりすることが必要です。

また、障害者自身が自分たちの意見を表明できる機会を増やすことも重要です。障害者の声を聴き、彼らのニーズに合わせた支援を行うことが、共生社会の実現につながります。

障害者に対する差別と偏見をなくし、すべての人が尊重され、インクルージョンされる共生社会を実現に向けて、努力を続けていくことが重要です。

おわりに

津久井やまゆり園事件から 7 年が経ったことを機に、事件を振り返り、今後の課題について考えるために書きました。この事件は、日本社会にとって大きな教訓であり、二度とこのような悲劇が起こらないように、社会全体で取り組んでいくことが重要だと感じました。この記事が、津久井やまゆり園事件について考えるきっかけとなり、共生社会の実現に向けての一歩となることを願っています。

（はるか 宮澤 大地）

能登半島沖地震災害ボランティアに参加して

令和 6 年 1 月 1 日の能登半島地震で被災してしまった皆様の助けになればと思い、今回全国社会福祉協議会の災害派遣に登録し能登町にて活動して参りました。

活動内容は金沢駅より車で 3 時間程の場所にある障害者入所施設での利用者支援のお手伝いです。施設に向かう道中も倒壊している家屋など見られ、震災による被害の大きさが伝わってきました。道路には亀裂や落石がまだ残っており、復旧活動が進んでいる状況ではあるものの、未だ通行止めのエリアも多くありました。施設内は天井に穴が空いている状況で、職員、利用者共に不安な日々を過ごしているように感じ取れました。職員も被災した方が多数おり、10 人以上が退職してしまった現状とのことです。利用者も自宅に戻れず、不安な時間が増えてしまっている様子が見られました。

施設職員の話では職員の人数が足りず、細かな個別支援が行き届かない状況の中でボランティアの方々の力がとても大きな支えになっているとのことでした。私が活動してきた日にも 5 名の方が災害派遣で活動しており、愛媛県や長野県などから来ていました。

活動を終えてみて、人的支援の不足をととも感じました。毎日ボランティアが派遣されていますが、先の見えない状況で職員の疲弊も見られました。今後もボランティアの輪が広がり、街全体が活気あふれる日常が戻るよう、今後につくばね会として防災派遣に協力していきたいと考えています。

今回の自分の行動が少しでも人の為になるようにと動きましたが、つくばね会の理念である「共に生きる」を再度考える機会にもなりました。多くの場所で「頑張ろう能登！」と書いてあり、「頑張ろう」には「一緒に」という言葉が秘められていると感じました。「頑張れ」でなく「頑張ろう」、多くの方が困った時に共に支え合えるそんな社会にしていきたいと思えた活動でした。

（けやき社会センター 長瀬 俊広）

けやきボウリング大会開催！！

5 月の土曜日活動は印西のアイキョーボウリングにてボウリング大会を行いました！
参加者 20 名 1 レーン 4 名のグループを 5 レーンに分け、ゲームスタート！
全てのレーンをガーター無し設定にしてもらい、ボールを投げることが難しい方はボール専用滑り台を使用することで皆さんスペアやストライクを何度も取ることが出来て大喜び！皆さんでハイタッチをしながら「楽しいねー」の声と笑顔がたくさん見られました。

2 ゲーム終了すると腕がパンパンでヘトヘトな表情を見せていましたが、「またやりたいね！」「ボウリング楽しい！」「今度はガーター無しでチャレンジしたい！」等、表情ニコニコで大好評でした。

ボウリング終了後は布佐にある華蓮厨房という中華料理店へ。
セットメニュー（メニューの具体化）の注文でボリューム満点！残してしまう方もいましたが、ほとんどの方が運動した後ということもあり、お腹ペコペコで完食。「お腹いっぱい！」「おいしかったー！」「まだ食べられるよ！」「おかわりしたいな〜」等とても満足そうでした。

今回、職員はサポート・見守りを重点的に行いましたが、サポートすることでどうしたら楽しんでもらえるか、また次回に活かすことが出来るかを知ることができ、また想像以上に皆さんに楽しんで頂けて職員一同大変嬉しく感じました。これからも皆さんに楽しんでもらえる土曜日活動を考えていきたいです。

（けやき社会センター 進藤 美幸）